

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/03/01

主要国の金融政策発表に関心集中

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	↘	ECBと日銀の緩和姿勢を確認 予想レンジ: 118.700~126.300円	2-3
ユーロ/ドル	↘	ECBとFRBを注視 予想レンジ: 1.05000~1.11300ドル	4-5
ポンド/円	→	戻り売り圧力が強い 予想レンジ: 151.500~161.500円	6-7
ポンド/ドル	↘	底打ち感乏しい 予想レンジ: 1.34000~1.44000ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

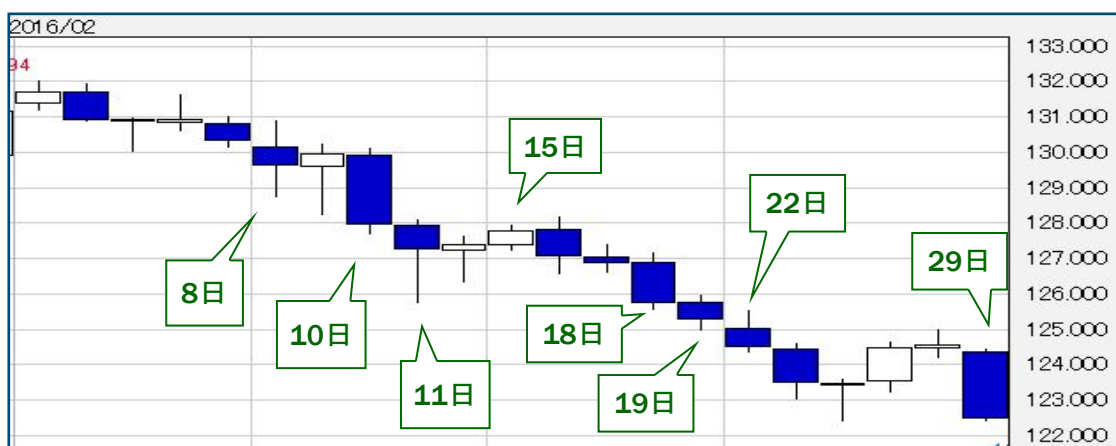
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ユーロ/円 2月の推移

EUR/JPY

2月のユーロ/円相場は122.453～132.026円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.6%の大幅下落(ユーロ安・円高)となった。

1月末の日銀「マイナス金利」導入の影響を受けた円売りによりユーロ/円は高く始まるも、一時的。その後は原油安や株安を受けて円買いが優勢となった事を始め、ECB要人から3月緩和を示唆する発言が相次いだことや、ユーロ圏2月のインフレ率が予想外の低下となった事などからユーロ売りも活発化したため、ユーロ/円は右肩下がりで推移。29日に2013年4月以来となる122.455円の安値を記録した。



四本値

OPEN	131.407
HIGH	132.026
LOW	122.453
CLOSE	122.531

8日	ドイツ銀行の利払いを巡る経営不安を嫌気して、銀行株主導で欧州株が急落。ギリシャと債権団による支援見直しを巡る不透明感が広がった事も重なり、ユーロ/円は128.764円まで下落した。
10日	米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が下院での議会証言で、利上げ姿勢を堅持する一方、中国経済や景気後退のリスクについても言及した。これを受けてリスク回避の動きが強まり、ユーロ/円は127.728円まで下落した。
11日	時間外のNY原油先物が軟調に推移した事や、欧州株価が軒並み下落した事から、リスク回避の円買いが活発してユーロ/円が125.771円まで下落。その後、ドル/円の急反発に伴って127.926円まで反発した。なお、日本政府筋は「介入の有無にはコメントしない」と述べている。
15日	欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁は「このところの金融市場の混乱、もしくはエネルギー価格の長期的な下落によりユーロ圏のインフレ率が低水準にとどまる状況が長引く恐れがある場合、ECBは3月の理事会で政策緩和に踏み切る用意がある」と発言。これを受けユーロ/円は値を下げた。
18日	ECB理事会議事録が公表され、「ユーロ圏の経済見通しに対するリスクは下方向、12月からそのリスクは増加」「政策手段の実施でECBに制限がない事を確約する必要」などが明らかとなった。これを受けてユーロが軟調に推移した。
19日	コンスタンシオECB副総裁が「インフレの回復が遅れると判断すれば、ECBは3月の理事会で行動する事を決める可能性がある」と発言。ただ、「下期にはインフレが上向くと予想している」「リスクは下向きだが、世界経済が再びリセッションに陥るようなことはない」とも発言しており、ユーロ相場の反応は薄かった。
22日	独2月製造業PMI・速報が50.2、ユーロ圏2月製造業PMI・速報は51.0といずれも予想(51.9、52.0)を下回った。また、フィンランド中銀のリーカネン総裁が「ECBは3月の会合で政策を再検討する可能性がある」「ECBは目標達成の為に更に行動する準備がある」と発言した。
29日	ユーロ圏2月消費者物価指数・速報値が前年比-0.2%と予想(±0.0%)外の低下となった。これを受けECBの追加緩和期待が高まると共に、ユーロ売りが優勢となった。

EUR/JPY

日経平均

OPEN	17699.60
HIGH	17905.37
LOW	14865.77
CLOSE	16026.76

独 D A X

OPEN	9823.73
HIGH	9827.10
LOW	8699.29
CLOSE	9495.40

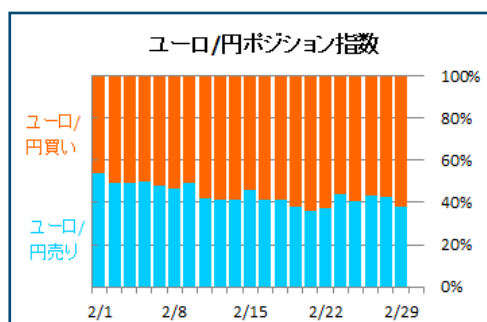
独2年債利回

OPEN	-0.488%
HIGH	-0.461%
LOW	-0.576%
CLOSE	-0.571%

独10年債利回

OPEN	0.343%
HIGH	0.359%
LOW	0.102%
CLOSE	0.107%

2月のポジション動向



3月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・2月米雇用統計(4日)
- ・2月中国貿易収支(8日)
- ・10-12月期ユーロ圏GDP・改定値(8日)
- ・10-12月期日本GDP・2次速報値(8日)
- ・欧州中銀金融政策発表(10日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・2月米小売売上高(15日)
- ・米FOMC(15-16日)
- ・2月日本貿易収支(17日)
- ・3月独Ifo景況感指数(22日)
- ・3月独ZEW景気期待指数(22日)
- ・3月独/ユーロ圏PMI製造業・速報(24日)
- ・3月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(31日)
- ・原油相場、主要国株価

3月の見通し

3月はECB理事会に注目したい。市場では中銀預金金利の0.1%引き下げが広く予想されており、一部で資産買い入れ額の規模拡大(現状は毎月600億ユーロを少なくとも2017年3月まで実施)も聞かれる。総合的に判断して、市場が予想している以上の緩和策がECBから打ち出されればユーロ売り材料となる可能性が高い。ただし、予想を下回る緩和策に留まる場合は昨年12月と同様にユーロ買いが強まる事もあり得る。思惑が交錯する中、前後のユーロ相場は荒れた展開となりそうだ。なお、今回の理事会ではECBスタッフ予想も発表される。昨年12月時点(2016年のインフレ率が+1.0%、経済成長見通しは+1.7%。2017年は1.6%、1.9%)と比べ変更があるか注目したい。

一方、日銀については、先月のG20で為替面において通貨安競争に懸念が示された事から、追加金融緩和実施のハードルが上がったとの見方がある。声明と共に黒田日銀総裁の会見で従来の発言内容に変化があるか、こちらも注目である。

今月は本邦の年度末決算に当たるため、円需給主導で相場が荒れる可能性がある。本邦2月貿易収支や日銀金融政策決定会合に注意したい。

テクニカル面では、先月10日に日足の一目均衡表の転換線を下抜けてからは、一度も同線を回復していない。少なくとも同線を回復するまでの間、下値模索の動きが続いていると見た方が良さそうだ。(川畑)

(予想レンジ: 118.700~126.300円)

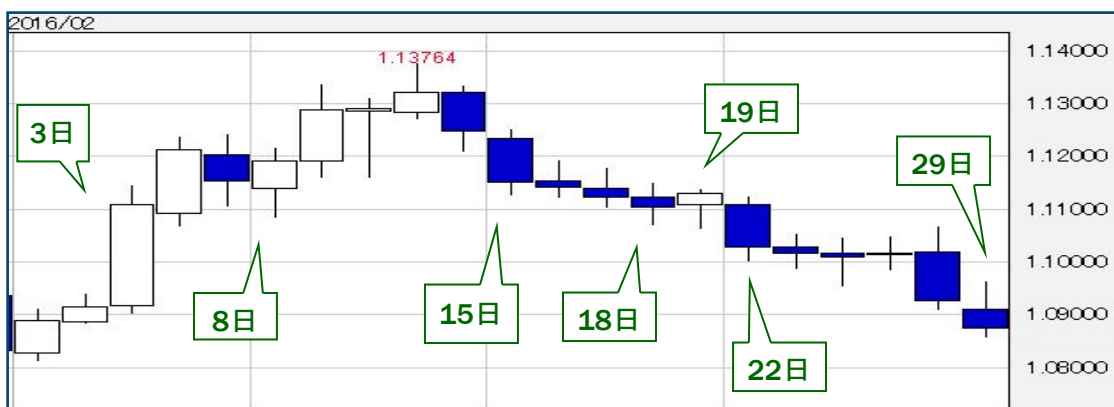
EUR/USD

ユーロ/ドル 2月の推移

2月のユーロ/ドル相場は1.08147～1.13764ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.4%の小幅上昇(ユーロ高・ドル安)となった。

前半は米景気減速懸念を受けたドル売りにより上昇するも、後半にドラギ総裁(15日)を始め複数のECB要人から追加緩和を示唆する発言が相次いだ事から上げ幅を縮小。ユーロ圏2月消費者物価指数が予想外の低下となった事も重石となった。

月足チャートを見ると、2月は「トンカチ」とされる上ヒゲが目立つ一方で実体部の短い足型となっており、上値の重さが窺える。



四本値

OPEN	1.08297
HIGH	1.13764
LOW	1.08147
CLOSE	1.08762

3日	ユーロ圏12月小売売上高は前月比+0.3%と予想通りだったため、ユーロの反応は限定的。ダドリーNY連銀総裁が「より強い確信を持って、金融環境は昨年12月のFOMC時点よりも著しくひっ迫したと言える」「こうした状況が3月の会合まで継続するようなら、金融政策決定を行う上で考慮する必要がある」などと発言した事や、米1月ISM非製造業景況指数が53.5と予想(55.1)を下回った事からドル売りが強まると、ユーロ/ドルは上昇した。
8日	ドイツ銀行の利払いを巡る経営不安を嫌気して、銀行株主導で欧州株が急落。ギリシャと債権団による支援見直しを巡る不透明感が広がった事も重石となり、ユーロ/ドルは下落。ただ、その後はリスク回避ムードが強まる中で米長期金利が低下すると反発した。
15日	欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁が「このところの金融市場の混乱、もしくはエネルギー価格の長期的な下落によりユーロ圏のインフレ率が低水準にとどまる状況が長引く恐れがある場合、ECBは3月の理事会で政策緩和に踏み切る用意がある」と発言。これを受けユーロ/ドルが下落した。
18日	ECB理事会議事録が公表され、「ユーロ圏の経済見通しに対するリスクは下方向、12月からそのリスクは増加」「政策手段の実施でECBに制限がない事を確約する必要」などが明らかとなった。これを受けてユーロが軟調に推移した。
19日	コンスタンシオECB副総裁が「インフレの回復が遅れると判断すれば、ECBは3月の理事会で行動する事を決める可能性がある」と発言。ただ、「下期にはインフレが上向くと予想している」「リスクは下向きだが、世界経済が再びリセッションに陥るようなことはない」とも発言しており、ユーロ相場の反応は薄かった。
22日	独2月製造業PMI・速報が50.2、ユーロ圏2月製造業PMI・速報は51.0と、いずれも予想(51.9、52.0)を下回った。また、フィンランド中銀のリーカネン総裁が「ECBは3月の会合で政策を再検討する可能性がある」「ECBは目標達成の為に更に行動する準備がある」などと発言した。
29日	ユーロ圏2月消費者物価指数・速報値が前年比-0.2%と予想(±0.0%)外の低下となった。これを受けECBの追加緩和期待が高まると共に、ユーロ売りが優勢となった。

EUR/USD

NYダウ平均

OPEN	16453.63
HIGH	16795.98
LOW	15503.01
CLOSE	16516.50

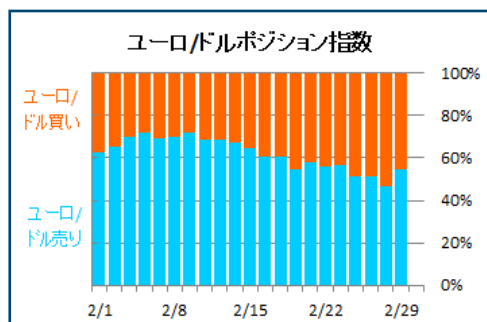
独10年債利回

OPEN	0.343%
HIGH	0.359%
LOW	0.102%
CLOSE	0.107%

米10年債利回

OPEN	1.9296%
HIGH	1.9642%
LOW	1.5286%
CLOSE	1.7347%

2月のポジション動向



3月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・2月中国財新/製造業PMI(1日)
- ・2月米雇用統計(4日)
- ・2月中国貿易収支(8日)
- ・10-12月期ユーロ圏GDP・改定値(8日)
- ・欧州中銀金融政策発表(10日)
- ・2月米小売売上高(15日)
- ・米FOMC(15-16日)
- ・3月独ZEW景気期待指数(22日)
- ・3月独Ifo景況感指数(22日)
- ・3月独/ユーロ圏PMI製造業・速報(24日)
- ・3月ユーロ圏消費者物価指数・速報値(31日)
- ・主要国株価、原油相場

3月の見通し

3月はECB理事会に市場の関心が集まりそうだ。これまでに実施された緩和策により、現在は中銀預金金利が-0.3%、資産買い入れ額は600億ユーロ(少なくとも2017年3月まで実施)、地方債まで資産買い入れ対象となっている。2月のインフレ率が予想外の低下となった事などから、市場では中銀預金金利の0.1%引き下げが広く予想されているほか、一部で資産買い入れ枠の拡大を指摘する声もある。総合的に判断して、市場が予想している以上の緩和策がECBから打ち出されればユーロ売り材料となる可能性が高い。ただし、予想を下回る緩和策に留まる場合は昨年12月と同様にユーロ買いが強まる事もあり得る。思惑が交錯する中、前後のユーロ相場は荒れた展開となりそうだ。なお、今回の理事会ではECBスタッフ予想も発表される。昨年12月時点昨年12月時点(2016年のインフレ率が+1.0%、経済成長見通しは+1.7%。2017年は1.6%、1.9%)と比べ変更があるか注目したい。

また、ECB理事会の翌週に米国でFOMCが開催される。足元の金利先物市場を見ると、米景気減速懸念から年内の利上げ期待が後退している。今回はイエレンFRB議長の会見が予定されている。米景気に対し楽観的な見通しを示し、今後の利上げペースを維持するようならば、ドル買いが強まり、ユーロ/ドル相場に下落圧力が掛かる事も考えられる。

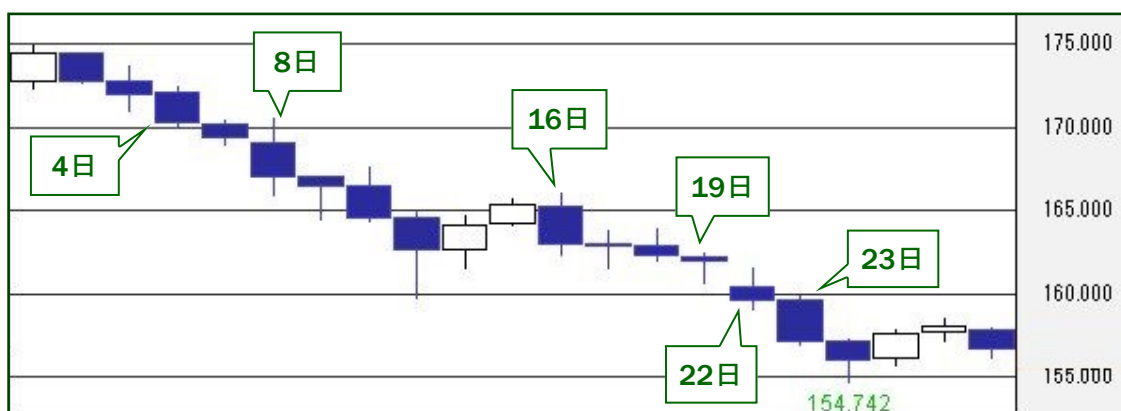
テクニカル面では、先月の足形が「トンカチ」となった事から上値の重さが読み取れる。テクニカルとファンダメンタルが揃って下方方向を指す場合、思いのほか強い下押しとなる事もあり得る。(川畑)

(予想レンジ: 1.05000~1.11300ドル)

GBP/JPY

ポンド/円 2月の推移

2月のポンド/円相場は154.742~174.995円のレンジで推移。月初からほぼ一貫して値下がり続き、月間の終値ベースでは約9.1%という大幅な下落(ポンド安・円高)を記録した。①英利上げ観測後退、②原油安・株安基調、③英国のEU離脱懸念など、弱材料に事欠かない中、24日には約2年4ヶ月ぶりの安値となる154.742円まで下値を切り下げた。下旬にかけてやや買戻しが入ったが、戻りは2月の下げ幅の2割にも届かない小幅なものであった。



四本値	
OPEN	172.826
HIGH	174.995
LOW	154.742
CLOSE	156.763

4日	英中銀(BOE)は金融政策委員会(MPC)を開き、政策金利(0.50%)と資産買い入れプログラムの規模(3750億ポンド)の据え置きを決定。声明文では「底堅い民間需要の伸びは限界的な供給余力の吸収に十分なモメンタムを生み出そうが、賃金の伸びは予想よりも弱く、労働コストは11月インフレ報告時点と比べやや緩慢な伸びに留まる見込みだ」と慎重な見解を示した。また同時に公表した議事録では、これまで利上げ票を投じていたマカファーティー委員も政策据え置き賛成に回った事が明らかとなった。さらに、BOE四半期インフレレポートでは、2016年と2017年の成長率見通しとインフレ見通しを従来の予想から引き下げた。これらを受けてポンド売りが活発化した。
8日	2015年決算で過去最大の赤字を計上したドイツ銀行について、一部債券の利払いが滞るとの不安が高まると同行を起点に欧州金融機関の株価が大きく下落。欧州通貨売りとりリスク回避の円買いによってポンド/円は大きく値を下げた。
16日	英1月消費者物価指数は前月比-0.8%と予想(-0.7%)を下回り、前年比のコア指数も+1.2%と予想(+1.3%)を下回る伸びにとどまった。これを受けてポンド安が進行した。
19日	前日から行われていた欧州連合(EU)首脳会議にて、英国のEU離脱回避に向けて移民への福祉制限などを含む改革案が合意された。これを受けて一時ポンド買いが強まった。しかし、欧米株価やNY原油先物の軟調推移を受けて円が買われたため失速した。
22日	前週末に、ジョンソン・ロンドン市長が、6月23日に実施が決まった国民投票に向けてEU離脱を求める運動を展開すると表明した事を受けて、オープンからポンド売りが活発化した。
23日	MPCのウィール委員が、「ポンド相場下落で、物価の上昇を抑えている要因の一つがなくなる」とし、「この意味では朗報だ」と発言。これがポンド安容認と受け止められてポンド売りが活発化した。

GBP/JPY

日経平均

OPEN	17699.60
HIGH	17905.37
LOW	14865.77
CLOSE	16026.76

FTSE100

OPEN	6083.79
HIGH	6115.37
LOW	5499.51
CLOSE	6097.09

英2年債利回

OPEN	0.342%
HIGH	0.428%
LOW	0.260%
CLOSE	0.378%

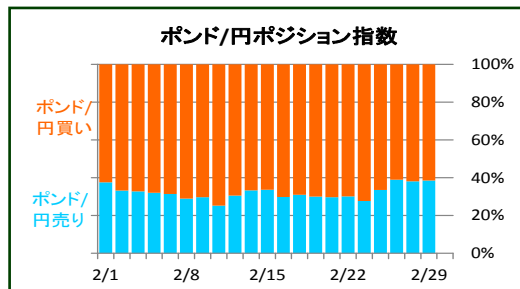
英10年債利

OPEN	1.571%
HIGH	1.633%
LOW	1.226%
CLOSE	1.337%

2月のポジション動向

3月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)



- ・2月英製造業PMI(1日)
- ・2月英建設業PMI(2日)
- ・2月英サービス業PMI(3日)
- ・1月日本国際収支(8日)
- ・10-12月期日本GDP・二次速報(8日)
- ・1月英鉱工業生産(9日)
- ・1月英貿易収支(11日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・2月英雇用統計(16日)
- ・BOE政策金利/議事録(17日)
- ・2月英生産者物価指数(22日)
- ・2月英消費者物価指数(22日)
- ・2月英小売売上高(24日)
- ・2月日本消費者物価指数(25日)

3月の見通し

2月のポンド/円相場は、52週移動平均からの下方乖離が一時15.3%に達した。これは、リーマンショックによる下落局面以来の大きさであり、中長期的な観点からは下げ過ぎ感も出始めた。今後、水準訂正の動きが起きても不思議ではないだろう。もっとも、左ページで挙げた2月の3大下落材料のうち、英利上げ観測後退と英国のEU離脱懸念は3月相場でもポンドの重石となる公算が大きく、短期的には戻り売り圧力が強そうだ。

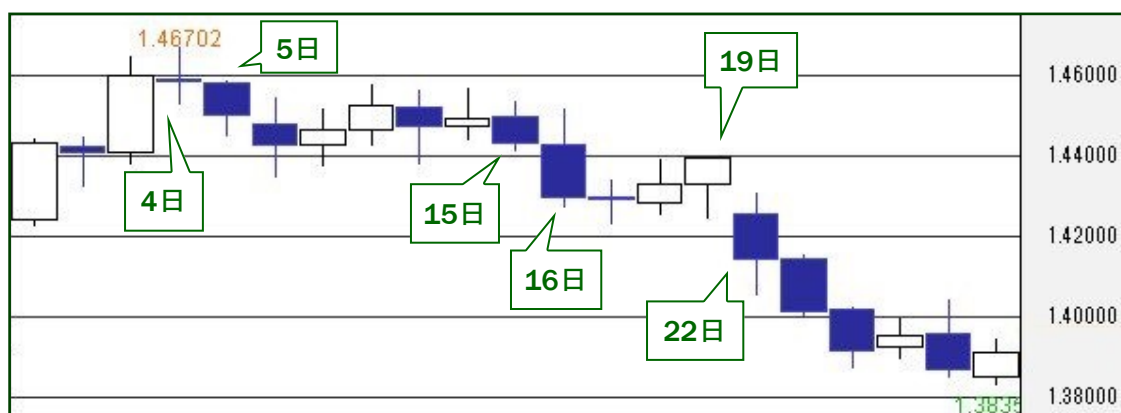
特に、EU離脱懸念は6月23日の国民投票に向けて、折に触れて材料視される可能性が高い。最新の世論調査によると、英政府による残留キャンペーンが奏功してか、やや離脱支持の割合が低下している模様だが、依然として態度を保留している有権者が多く予断を許さない状況にある。ジョンソン・ロンドン市長や、英政府内の離脱支持派としてしられるゴープ司法相などの発言がクローズアップされる事も考えられる。ポンド/円相場は、水準訂正的な戻りがあったとしても、2月の下げ幅の38.2%値戻しにあたる162円台半ば前後では上値が重くなりそうだ。(神田)

(予想レンジ: 151.500-162.500円)

ポンド/ドル 2月の推移

GBP/USD

2月のポンド/ドル相場は1.38355～1.46702ドルのレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.3%の下落(ポンド安・ドル高)となった。英中銀の利上げが大きく後ずれする見通しとなった事や、英国のEU離脱懸念が収まらない事が響き、4カ月連続の下落となった。米国の追加利上げ観測も後退したため、一時ドル安・ポンド高に振れる場面もあったが、最終的にはポンドに対する売り圧力がドル安圧力を上回った格好だ。なお、29日に付けた1.38355ドルは2009年3月以来、ほぼ7年ぶりの安値である。



四本値

OPEN	1.42444
HIGH	1.46702
LOW	1.38355
CLOSE	1.39151

4日	英中銀(BOE)は金融政策委員会(MPC)を開き、政策金利(0.50%)と資産買い入れプログラムの規模(3750億ポンド)の据え置きを決定。声明文では「底堅い民間需要の伸びは限界的な供給余力の吸収に十分なモメンタムを生み出そうが、賃金の伸びは予想よりも弱く、労働コストは11月インフレ報告時点と比べやや緩慢な伸びに留まる見込みだ」と慎重な見解を示した。また同時に公表した議事録では、これまで利上げ票を投じていたマカファーティー委員も政策据え置き賛成に回った事が明らかとなった。さらに、BOE四半期インフレレポートでは、2016年と2017年の成長率見通しとインフレ見通しを従来の予想から引き下げた。これらを受けてポンド売りが活発化した。
5日	米1月雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比15.1万人増(予想19.0万人増)にとどまった一方、失業率が4.9%、平均時給が前月比0.5%(予想5.0%、0.3%)に改善した。これを受けてドル買い・ポンド売りが優勢となった。
15日	英中銀(BOE)のマカファーティー金融政策委員会(MPC)委員が「賃金増やインフレ加速の上振れリスクがさらに遠のいた」と発言。タカ派として知られる同委員のハト派発言を受けてポンド売りが活発化した。
16日	英1月消費者物価指数は前月比-0.8%と予想(-0.7%)を下回る低下となった。また、前年比のコア指数も+1.2%と予想(+1.3%)を下回る伸びにとどまった。これを受けてポンド安が進行した。
19日	前日から行われていた欧州連合(EU)首脳会議にて、英国のEU離脱回避に向けて、移民への福祉制限などを含む改革案が合意された。これを受けてポンド買いが強まった。
22日	前週末に、ジョンソン・ロンドン市長が、6月23日に実施が決まった国民投票に向けてEU離脱を求める運動を展開すると表明した事を受けて、オープンからポンド売りが活発化した。

GBP/USD

NYダウ平均

OPEN	16453.63
HIGH	16795.98
LOW	15503.01
CLOSE	16516.50

米10年債利回

OPEN	1.9296%
HIGH	1.9642%
LOW	1.5286%
CLOSE	1.7347%

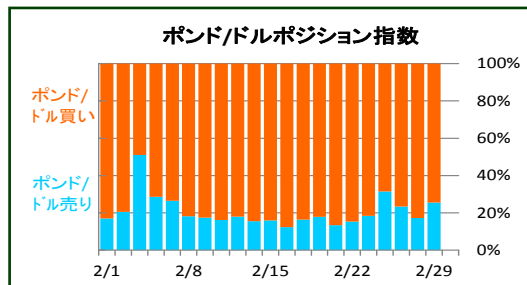
英10年債利回

OPEN	1.571%
HIGH	1.633%
LOW	1.226%
CLOSE	1.337%

2月のポジション動向

3月の注目ポイント

月間指標カレンダー(外部リンク)



- ・2月英製造業PMI(1日)
- ・2月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・2月米ADP全国雇用者数(2日)
- ・2月米ISM非製造業景況指数(3日)
- ・2月米雇用統計(4日)
- ・1月英鉱工業生産(9日)
- ・1月英貿易収支(11日)
- ・2月米小売売上高(15日)
- ・2月英雇用統計(16日)
- ・2月米消費者物価指数(16日)
- ・2月米鉱工業生産(16日)
- ・米FOMC(15-16日)
- ・BOE政策金利発表/議事録(17日)
- ・2月英消費者物価指数(22日)
- ・2月英小売売上高(24日)
- ・10-12月期米GDP・確報値(25日)

3月の見通し

ポンド/ドル相場は、前頁のチャートからも確認できるように足元でも下落が続いており、約7年ぶりの安値に沈んでいる。しかし、シカゴ通貨先物市場(IMM)におけるポンド売り(ショート)ポジションはで3万枚余り(2月23日時点)と、1ヶ月前に比べると3割ほど減少しており、下落が進むにつれて先安感が薄れつつあるようにも映る。ただ、ショートポジションの減少は「売り余力の増加」と見る事もできる。EU離脱問題などを巡り追加的な売り材料が出やすいだけにポンドの底打ち感は乏しく、短期筋は戻り売りの姿勢を崩してはいないと考えられる。

また、ドルの上昇を原動力とするポンド/ドルの下落も見通しやすい。米連邦公開市場委員会(FOMC)が3月に利上げに踏み切る可能性は極めて低いものの、利上げスタンスそのものは維持する公算が大きい。そうした中でFOMCが4月や6月の利上げの可能性を閉ざす事はないと考えられる。英中銀(BOE)の利上げ期待が後退(2018年まで先送り観測も浮上)したポンドは、利上げ期待が残るドルに対して弱含む展開が見込まれる。場合によっては、2009年1月に付けたリーマンショック後の安値1.35010ドルを更新する可能性もありそうだ。(神田)

(予想レンジ: 1.34000~1.44000ドル)